

平成 22 年度 理研バイオリソースセンター レビューA 委員会 諮問事項について
疾患モデル評価研究開発チーム

1. 各室・チームは科学的に大きな意義のある業績及び社会的に波及効果の大きな業績を挙げているか。

総評： 新規難聴モデルの確立、生活習慣病モデル、ヒト発癌モデルマウス等、新規ヒトモデルマウスが多数樹立されており、質的、量的に高い水準の研究成果を得た。高く評価する。一方、論文発表が無く、早急に論文発表する必要がある。論文発表することにより、共同研究が大幅に促進されると思われる。

- ・ 上手く焦点が絞られ、内容的には進展が大きい。しかし、その業績が社会に伝わっていない。早期の論文発表が必須である。

2. 各室・チームの運営にかかわる Plan-Do-Check-Action (PDCA) サイクルは機能しているか。

A. 前回の BRAC、リソース検討委員会及びセンター内自己点検・評価の指摘事項への対応状況について。

総評： BRAC、レビュー委員会及びセンター内自己点検・評価の指摘事項へは適切に対応している。

- ・ 指摘事項に対応して、チーム構成、資金に見合った研究テーマに数を減らしている。
- ・ もっとこれまでの研究業績を活かして欲しい。
- ・ 理研内での調整は若干不十分と思われる。

B. 今中期計画の残りの 2 年間の方針及び実施計画について

総評： 適切であるが、時間と計画内で完成できる計画が望ましい。

- ・ これまでの結果報告に重点をおいて行って欲しい。論文発表後は、マウスを速やかに公開することが重要である。
- ・ ヒト発癌モデルの高価値化が最大の課題と思われる。リーダーの実力からして、一定のレベルに到達すると思われる。
- ・ かなり、絞り込んだという印象が強い。
- ・ 状況は厳しいかもしれないが、BRC 内のサポート強化等によって、もっと幅広に進められることが望まれる。

3. 各室・チームのセンター内外における連携活動及び国際連携の促進について(特筆する活動・成果があればご記入お願いいたします)。

- ・ 一部のチームとの連携が緊密に行われている。

- ・ マウスクリニックに協力しているが、それが負担となっている部分もあるとの事であり、研究所内で調整が必要と思われる。
- ・ 癌研との連携はよくとれているが、未発表データが多いため、有効な連携は感じられない。

4. その他コメントがございましたらご記入お願いいたします。

- ・ 論文発表を！
- ・ 早期の公開が望まれる。
- ・ ヒト発癌モデルマウスに期待したい。
- ・ マウスを用いたヒト実験系への確立は、ヒト疾患解析には重要と思われる。
- ・ マウスクリニックとの調整は必要と思われる。

以上